

歴史

history

開



後世に残したい 須恵町の伝統と文化

江戸時代、日本四大眼科の一つにあげられ、全国から患者が集まった「田原眼科」と「岡眼科」、殿様の磁器を焼いた「御用窯 須恵焼」、仏教文化の隆盛を示す「十一面観音立像」、明治の栄華をしのばせる「海軍炭鉱創業記念碑」。須恵町には、先祖が積み重ねてきた歴史の遺産が数多く残されています。歴史に触れることで、町の新たな魅力を発見できるはずです。

海軍炭鉱創業記念碑

！ 太古からの歴史が息づく



須恵町立歴史民俗資料館

全国的にも町立歴史民俗資料館が珍しかった昭和48年、九州初の町立資料館として開館。先祖の歴史を眠らせておかず、まちの財産として今の暮らしに生かそうという発想が実ったものです。古代から近代まで、須恵町の歴史を時間の流れに添って紹介。1万点以上の資料がそろい、初めて訪れた人からは「こんな小さなまちに、こんな立派な資料館が！」と驚かれます。



もりぼしんじゅ 守母神社

祭神は高鳥居城（岳城山山頂）の落城まつわる、守母伝説に登場する天眼慈照禅尼（てんげんじしょうぜんに）。子守り、夜泣き止めの神様として崇められています。毎年4月23・24日には、子供の健やかな育成を祈願する祭礼が行われています。



しんばる 新原海軍炭鉱

艦船用の石炭採掘のため明治23年に作られた新原海軍炭鉱は、昭和39年に閉山するまで地域の産業を支えました。第四坑の本部跡に位置する新原公園は、その資料が現存する唯一の場所。公園中央には「海軍炭鉱創業記念碑」が建てられています。



！ 県指定文化財

建正寺・十一面観音立像

最澄の作と伝えられる全長175cmの観音像。最澄が開基したとされる建正寺に安置されており、毎年4月の第1日曜日の御開扉で拝観できます。昭和29年に県指定有形文化財（彫刻）の第1号に指定されました。（→P15）



！ 目薬と眼療宿場

須恵目薬「正明膏」

江戸時代に田原眼科、岡眼科という有名な眼科があり、全国から患者が訪れた須恵町。宿場町のように賑わい、現在は田原眼科の門の石垣が往時の雰囲気を感じさせています。また、昭和20年代までは「正明膏（しょうめいこう）」という目薬が盛んに作られていました。



interview

オンリーワンの誇りを持って

「須恵町史の編さんに携わって感じたことは、ほかの町にはない歴史があるということ。須恵焼は福岡藩で唯一の磁器御用窯として重用され、新原炭鉱は日本で唯一の国営炭鉱として良質な石炭を産出。その石炭を運ぶために作られた香椎線は、ほかの石炭運搬用の線路が廃線になるなかで現在も使用されています。ほかにも日本四大眼科のひとつ、田原眼科が開業したなど、どれも誇るべきものばかりです。」



文化財専門委員の石瀧豊美さん